

特別 | 対談

NTT西日本株式会社
代表取締役社長 社長執行役員

北村亮太氏

(きたむら・りょうた) 1965年生まれ。88年に東北大学法学部を卒業し、日本電信電話(NTT)に入社。2011年にNTT東日本経営企画部営業企画部門長、18年にNTT取締役経営企画部門長を歴任。22年にNTT東日本代表取締役副社長となり、24年4月より現職。

ひらく、つなぎ、新しい世界を

慶應義塾大学医学部教授
大阪・関西万博テーマ事業プロデューサー

宮田裕章氏

(みやた・ひろあき) 1978年生まれ。2003年に東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修士課程修了。日本のデータサイエンス分野の第一人者で、約5,000病院が参加する「National Clinical Database」やコロナ全国調査などさまざまなデータの利活用や社会の共創モデル構築に取り組む。26年4月開学予定の「コー・イノベーション大学」(旧飛騨高山大学)の学長候補。

五感がひらく、未来のコミュニケーションの扉

北村 私たちのパビリオンは「パラレルトラベル」を「コラセプト」に、大阪万博が開催された1970年と2025年の二つの時空を行き来し、「IOWNによる「ミニヨン」ケーションの未来をめぐる旅」を体験いただくものでした。Performance(パフォーマンス)などの「コラボレーションによる空間伝送」では、音声・映像だけでなく振動まで伝送し、五感を通じて空間や感覚を共有することで、物理的・心理的な壁を乗り越え、誰もがいるがままに幸福に生きられる世界観を描いています。

パビリオンには約39万人、周辺の体験エリアも含めると約185万人の方に来場いただきました。パビリオンの運営はすべてグループ社員が担当、真心を込めたものなしに「奇跡のパビリオン」と言っていただけとも非常に嬉しく思っています。

富田 まさにNTTパビリオンは、電話からIOWNへと至る歴史を提示し、情報革命という文明の転換点、本質論を表現していました。北村社長が言われた「五感」や「つなぎによる幸せ」といったテーマは、私たちのパビリオンの世界観とともに深く共鳴します。

北村 宮田先生のパビリオンは、森と調和した空間が本当に印象的でした。特に「共鳴」の演出が素晴らしかった。「振動を感じる仕掛けを通じて参加者同士が感覚を分かち合はずるものを感じました。

富田 新しい技術によって人と人と世界などのつなぎを結びなおすことができるのではと考えています。今まででは画一的な未来や画的な幸せしかめざせなかつたが、IOWNのような新しい技術は、一人ひとりの多様性に寄り添うことを可能にし、誰も取り残さない社会につながる。万博の最大のレガシーは約2900万人の来場者、つまり「人」その

ものです。NTTパビリオンをはじめとする素晴らしいコンテンツを通じて「多様でありながら、ひとつ」という理念やさまざまな未来の可能性が来場者に伝わったことがとても良かつたと思います。

来場者が主役、体感型万博の新境地

北村 今回の万博は、単なる展示の場ではなく、未来の社会を体験できる実証の場として極めて意義深いものでした。私たちもIOWNの可能性を具体的に示すため、さまざまなユースケース(実証実験)を行いました。

「1万人の第九 EXPO 2025」では、IOWNを活用して会場で600mにわたって並ぶ合唱団の音声遅延をリアルタイムで補正し、一体感ある演奏を実現しました。また会期中は放送局向けにリモート制作環境を提供。会場内のサテライトスタジオとデータセンター上の制作設備をIOWNで結び、複数の放送局が遠隔から番組制作を行いました。その他10件の実証を行い、来場者の方々に「こんな未来が間近に迫っているのか」と実感いただけたことは大きな手応えになりました。私たちの次の責務は、この万博での実証を確かなレガシーとして、社会実装へと着実に進めていくことです。

富田 実証の場に加え、来場者と共にづくりあげた万博だったとも言えます。来場者が当初の興味とは異なるパビリオンにも足を運び、自身の価値観と違ったものにも面白さを見出していくなど、五感を通じて、それもデジタル技術を加えることで拡張した五感覚の中での多様性の価値を発見するプロセスが万博にはありました。来場者という最後のピースがはまつて初めて、万博は完成したと実感しています。

断を超える可能性を秘めています。

北村 本当にその通りで、万博の場は多様性を重視しながら、多様な個性が一体となって活躍できるインクルージョン(包括)の世界が実現できていました。

今後、通信インフラの高度化により、コミュニケーション(包括)の世界は視覚・聴覚・触覚・嗅覚・味覚まで伝送可能な時代になります。またIOWNは、2032年までに消費電力を100分の1にする「低消費電力」を実現しています。これはAI時代の電力問題を解決し、利便性と環境保全を両立させた持続可能な社会に貢献します。最先端技術やデータの活用により、人と人、あるいは自然、らゆるもののがなり、個人の幸せや社会の豊かさが共有・共感されることで、世の中全体のウエルビーイング(心身が健康で幸福な状態)が増幅されるつながりは、未来において一層大事になると感じています。

北村 私たちのパーパス(存在意義)は『つなぐ』その先に「ひらく」あたらしい世界のトピラ』です。未来的創造は一社では成し遂げられず、共鳴・共感しながら多様な仲間と共創することが不可欠です。データ活用においては、特定企業による独占ではなく、さまざまな主体がデータを持ち寄り掛け合わせる日本型モードを推進すべきだと考えています。これにより、日本の価値創造力を高め、あらゆる人が豊かで幸せを実感できる社会を実現できると信じています。

北村 「つなぐ、ひらく、いく」という言葉は、まさに今回の万博の核心を突くコンセプトでした。社会は経済合理性から「一人ひとりの幸せや豊かさを価値とする新しい段階に移行しつつあります。万博で生まれたさまざまな共鳴の先に、一人ひとりが輝ける新しい社会を築いていくはずです。閉幕後も残ることが決まりました。『静けさの森』でIOWNを使った新しい体験を定期的に実装するなど、NTTパビリオンが刻んだ楔と一緒に発展させていける嬉しさです。

北村 私たちの持つ技術を活かし、富田さんをはじめ、様々なパートナーとともに「つなぐ、ひらく、いく」共創の力で、誰もが幸せを実感できる持続可能な未来を切り拓いていきたいです。

もの。NTTパビリオンをはじめとする素晴らしいコンテンツを通じて「多様でありながら、ひとつ」という理念やさまざまな未来の可能性が来場者に伝わったことがとても良い」と思います。

「つなぐ」その先へ、共創が未来を動かす

北村 私たちのパーパス(存在意義)は『つなぐ』その先に「ひらく」あたらしい世界のトピラ』です。未来的創造は一社では成し遂げられず、共鳴・共感しながら多様な仲間と共創することが不可欠です。データ活用においては、特定企業による独占ではなく、さまざまな主体がデータを持ち寄り掛け合わせる日本型モードを推進すべきだと考えています。これにより、日本の価値創造力を高め、あらゆる人が豊かで幸せを実感できる社会を実現できると信じています。

北村 「つなぐ、ひらく、いく」という言葉は、まさに今回の万博の核心を突くコンセプトでした。社会は経済合理性から「一人ひとりの幸せや豊かさを価値とする新しい段階に移行しつつあります。万博で生まれたさまざまな共鳴の先に、一人ひとりが輝ける新しい社会を築いていくはずです。閉幕後も残ることが決まりました。『静けさの森』でIOWNを使った新しい体験を定期的に実装するなど、NTTパビリオンが刻んだ楔と一緒に発展させていける嬉しさです。

北村 私たちの持つ技術を活かし、富田さんをはじめ、様々なパートナーとともに「つなぐ、ひらく、いく」共創の力で、誰もが幸せを実感できる持続可能な未来を切り拓いていきたいです。

未来社会を支える新しいネットワーク「IOWN(アイオン)」

Innovative Optical and Wireless Networkの略。光技術を活用し、高速・大容量通信を可能にする次世代通信基盤。消費電力と遅延を大幅に抑え、豊かな未来社会の実現をめざす。



未来社会



IOWN(APN)^{*1}



*1 APN: All-Photonics Network *2 光ファイバー1本あたりの通信容量の目標値 *3 フォトニクス技術適用部分の電力効率の目標値 *4 同一県内で圧縮処理が不要となる映像トラヒックでの遅延の目標値